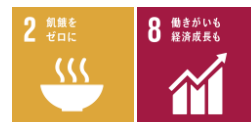


普及現地情報

発信年月日：令和2年(2020年)12月18日
所属名：湖北農産普及課
番号：G20026
部門分類：120(麦・豆・雑穀)
発信者名：新谷

湖北地域土づくりセミナーを開催



12月8日(火)、近年単収の低迷が顕著となっている大豆の生産安定を図るため、水稻・麦類・大豆の輪作体系に取り組む農業者が大豆の増収などに活用できる土づくり手法を習得することをねらいとし、土づくりセミナーを開催したところ、農業者38名、関係機関等12名の参加がありました。

本セミナーでは、農林水産省の土づくり専門家派遣事業により、三重県土壤医の会の近藤芳弘氏をお招きし、土壤肥料の基礎知識および水田輪作体系における大豆増収に向けた土づくり手法についてお話しいただきました。大豆の主な低収要因は湿害や干ばつ害、病害、虫害、雑草害に加えて、地力の低下や土壤の酸性化、土壤物理性の悪化であると考えられており、土づくりは大豆の安定生産のために欠かせないものです。参加者からは、三重県で近年普及しているチゼル耕を用いた耕起体系に関する質問などが投げかけられ、大豆の収量改善に対する関心の高さがうかがわれました。

当課では、本セミナーを契機とし適切な土づくりが実践されるよう、関係機関と連携し、農業者に対する支援を実施します。



セミナーの様子

転作大豆の土壌管理

水田土壌の特徴

- 還元状態で、地力富集が保持される(水稻はアンモニアを好む)
- 嫌気性条件なので、有機物(有機体窒素)の分解が遅い

当初は地力豊富 → 畑状態 → 消耗 → 大豆収量低下

大豆作による土壌の変化

- 酸化状態で硝酸態が流出しやすい(大豆は硝酸を好む)
- 好気性条件なので、有機物(有機体窒素)の分解が早い
- リン酸の可溶性が低下する(水田では可溶性が大)
- 鉄・マンガンが不溶化する(水田で)



当日資料(一部)